薬剤の「一般名処方」の実施について

- 当院では、薬剤の一般名を記載する処方箋を交付することがあります。一般名処方とは、医師が患者様に必要な薬剤を、「商品名」ではなく「成分名」で表記した処方箋のことです。
- 一般名処方は、同じ成分であれば薬価が低い薬剤を調剤することが可能となるため、医療費の軽減につながります。また、一般名処方により同じ成分であれば同じ効果が期待できるため、供給が不安定な医薬品を調剤する患者様の安全性が確保されます。
- ただし、一般名処方は、医療用医薬品として承認された商品名と異なる名称が処方箋に表示されるため、患者様が混乱することがあります。そのため、当院では薬剤の供給状況等を踏まえつつ、一般名処方の趣旨を患者様に十分に説明することを心がけておりますが、ご不明な点はお気軽に医師にお問合せください。

「一般名処方」とは？

- 医療用医薬品は「先発医薬品」と「後発医薬品」の二つに分類されます。「先発医薬品」とは、最初に発売された薬で、新薬とも呼ばれます。
- 後発医薬品は、先発医薬品の再審査期間や特許期間（20～25年間）終了後に発売されるもので、ほぼ同じ成分、同じ効き目の薬で、ジェネリック医薬品とも呼ばれています。
- 医師が先発医薬品を指定して処方せんを発行するときは、「商品名」を記入しますが、特に新薬である必要がなく、後発医薬品が存在するときは薬の有効成分の名称である「一般名」を記入します。これを「一般名処方」と言います。

国は、医薬品不足が続く現状のなかで、薬による治療が滞りなく行えるよう、「一般名」を処方せんに書くことで、保険薬局の在庫状況に応じて、先発品、後発品のいずれも調剤ができる状態にするため、「一般名処方」を推進しています。

- 患者様のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。